

読書のすゝめ

その10

H 31

4 / 26

新任者紹介 ⑨

青山 美佐子先生 (1年7組副担任・商業)



『そして、バトンは渡された』瀬尾まいこ (文藝春秋)

2019年本屋大賞を受賞した本です。父親が三人いて母親が二人いて、名字が四回変わって、と血の繋がらない親の間をリレーされた十七歳の女子高生の話です。高校生としての友人、異性関係、家族問題、社会問題様々な内容があり登場人物が身近に感じられます。設定だけみると重い話のようですが、とても心温まる物語で最後のシーンでは涙がホロリ、そして爽快な気分にくれます。私は学校図書館を利用してこの本を読みました。皆さんもぜひご利用しましょう。



『傑作はまだ』瀬尾まいこ

※本屋大賞受賞後の最新作



そこそこ売れている引きこもりの小説家・加賀野の元に、生まれてから25年間一度も会ったことのない息子の智が突然訪ねてきます。息子のは何も知らず月十萬円の養育費を振り込むと智の写真が一枚届く。それが唯一の関わりだった二人です。突然の訪問に戸惑う加賀野ですが、智の「しばらく住ませて」という言葉に押し切られる形で二人の同居生活が始まります。二人の同居生活を描いた笑って泣ける父と子の再生の物語。

『誰かと近づけば、傷つくことも傷つけてしまうこともある。自分のペースどおりに進めないし、何気ない相手のふるまいに不安に駆られることもある。自分がどう思われているのかが気にかかり、それと同時に誰も俺なんか見ていないんだと自意識の強さに恥ずかしくなる。自分の価値がどれくらいなのか無意味なことばかりかかっている。優越感や劣等感に襲われる。』(本文より抜粋)

4月の図書館利用

1年生も学校生活に慣れてきたところでしょうか。
3週目後半から利用者が増えており、今週は22日が24名、23日が32名、24日は31名。真新しい青シユーズの1年生がほとんどです。貸し出しも多く、すでに一人が25冊を借りている1年生がいます。3〜5冊を借りている5名も1年生です。
『ポルタンブレイク中にもたくさん本が読めるように』一人5冊を超えての貸し出しをしたいと思います。カウンターで相談してください。

図書委員会報告

28日(木)第1回図書委員会が開催されました。

- ① 前期役員の決定
- ② 文学散歩について
- ③ 中央研修会への参加(発表)について

今年度前期の委員長などの役員を決めました。

また、例年9月末に実施している文学散歩については、国体開催時期と重なりバスの手配ができません。そのため、9月上旬に横浜方面(新聞博物館など)に行くことになりました。

今年度最大の図書委員の活動は、12月11日にザ・ヒロサワ・シティ会館(旧名・県民文化センター)で開催される『生徒図書委員会中央研修会』全体会で、図書委員会活動の発表をおこなうことです。発表に向けて図書委員さんたちががんばっていききたいと思います!



新役員あいさつ

- | | |
|------|-------------|
| 委員長 | 高橋悠斗 (3-4) |
| 副委員長 | 安達詢社 (3-3) |
| 書記 | 鈴木花菜 (3-7) |
| | 谷田川叶莉 (3-7) |
| 会計 | 佐瀬七海 (3-6) |
| | 石田智紀 (3-4) |

